

西宮 えびす

平成19年
新春号

十日えびす
福

諸国探訪
成松蛭子神社

境内各所整備
福



えびす NISHINOMIYA EBISU 平成19年新春号 西宮えびす 平成19年新春号(通巻第26号) 平成18年12月1日 発行 発行/西宮神社 〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-17 電話0798-60321 FAX0798-60355 編集/事業課広報 印刷/小西印刷所



えびすトピック

● 社用日誌翻刻 — 関西学院大学と 学術協定調印式 —



当社には幾度の戦火や災害を免れてきた古文書が保存されていますが、中でも社用日誌は元禄七年(西暦二六九四)からのものが残り、現在までも歴代神主が書き綴って

主が書き綴って、江戸時代のものでだけでも二〇九冊にのぼっています。社報十九号にて社用日誌のマイクロフィルム・デジタル化した記事を記載いたしました。今回、当社ではこれらの日記を翻刻するに当たり、地元西宮の関西学院大学と学術連携協定を締結して、その成果を地域社会の発展にも活用頂ければと考えております。

● 兵庫と岐阜をつなぐ「お囃子奉納」



去る六月十八日岐阜県大垣市の船町から、九月三日同市宮町から、お囃子が奉納されました。

西宮市と大垣市との関わりは約三三〇年前。江戸初期に西宮を管轄した尾崎藩主の戸田家は代々えびす神を深く信仰し、特に戸田氏鉄は毎年米三十石を西宮神社に寄進していた事が知られています。後の寛永十二年(西暦一六三五年)戸田家は尾崎から美濃国大垣

(現在の岐阜県大垣市)に転封になりますが、以後もえびす神の崇敬厚く、延宝七年(西暦二六七九年)には戸田氏西が西宮神社に使者を派遣し、特に祈願を行った事が記録に残っています。この際、大垣の八幡神社例祭に練り出す軸にえびす神を勧請。以来この軸は恵比須軸と呼ばれています。現在でも八幡神社例祭は「大垣まつり」として恵比須軸を含む十二両の軸が練りだされており、今回奉納されたお囃子は笛や太鼓を組み合わせたもので巡行の際に演奏されています。

● えべっさんを通じて海外交流

Isao Imai, choc des

Le spécialiste japonais du traitement de surface Miyoshi Kasei, lui a confié l'installation de son us



七福神の一柱として名高いえびす様。日本だけでなく、海外にも福を求める方がいらっしやいます。化粧品の原料等を製造する三好化成(本社埼玉県)のフランスのリヨン工場に勤めていらっしやるイサオ・イマイさんもその一人。D'ailleurs, il doit les d'entrepotes en plusieurs explications rapport aux États-Unis. Cependant, comptant mission, autorisé ne en l'i bons tiers et l'accable même, e dire que mais ne je ne pas Isao Imai.

同工場の落成記念に大阪の友人から当社の福熊手・福箕をプレゼントされました。以来、イマイさんの仕事部屋には福熊手・福箕が飾られ、地元フランスの人々にも注目されているそうです。また今年十月二十日ブラジルの友好使節が



米社。同使節は、西宮市と友好都市協定を結ぶパナナ州ロンドリーナの方々に、正式参拝・神楽奉奏に続いて、境内のおかめ茶屋で二服。その後、当社をあとにされました。

編集室から

● 悠仁親王御生誕お慶び申し上げます。近頃は皇室典範の改正をめぐって、さまざま議論が噴出してありますが、何はともあれ、健やかに御成長あそばされる事を祈るばかりです。

● 明るい話題をもう一つ。既にお気づきの方もいらっしゃると思いますが、十月より夜間に赤門のライトアップを行っています。赤色ナトリウム灯に朱が映えて美しく、また近所の方からは「明るくなって歩きやすくなった」と好評です。

● 当社では毎月二十・二十一日の午前十時より本殿にて旬祭を斎行致しておりますが、本年度の十月二日から御神慮を慰めんがため、神楽(豊栄舞もしくは浦安舞)を奉奏致しております。ご自由に拝殿にお入り頂きご参列下さい。



ライトアップされた赤門

◎表紙絵/新協美術会委員 水戸成幸



本年もえびす大神様のご加護のもと、益々のご健勝とご繁栄をこころよりお祈り申し上げます。

日本には四季が訪れ、廻る季節の折々に日頃からお世話になっていらっしゃる方々に感謝の気持ちを形として、まごころをこめた品物をお贈りする良き習わしがあります。この風習は江戸時代にも行われておりました。当時西宮神社では管轄していた大坂東、西奉行所に暑氣見舞いや寒氣見舞いとして、季節が訪れると神主から武運長久を祈った祈禱巻数とともに酒などが贈られていました。奉行所側も時候の挨拶としてこのような贈り物は受取られていました。

奉行所からは定期的に神社の見分があり、神社毎に具に境内を調査し建物等の間数が届け出と相違がないか照合を行っていました。安永四年(1775)の閏五月にも西宮においてこのような神社見分が行われ、役人が当社にお越しの際に準備しておいた酒肴を差出し盃を勧めると「御役先之事故御断り」されました。それではと今度は旅宿に伺い、与力には鶏卵五十個入りを二籠、同心には三十個入り二籠をお届けした処、同じく「役先之事故難受」(仕事先のことなので受けとることはできない)と、後で返却されてきました。このような武士の

気構え、はじめには感心せざるを得ません。自分の立場を利用するということは対極にある、社会組織の中での武士としての強い使命感が大いに働いていたのでしょう。「武士は食わねど高楊枝」の通り、武士としての気位、誇りを最も大切にしていたわけですから。

この事例と今を比較すると、全く逆で現在では虚礼廃止と称し、時季の贈り物の風習はどんどん薄れ、その一方で前の例で申せば(便宜を図るとまでは言わないまでも)仕事先で何やら贈り物をこっそりと受取るというようなことが日常茶飯事に行われています。

このように大切に受け継がれてきたわが国の美風について、私たちは儀礼や様式を形骸化させることなく、そのころをもう一度学び直す必要があるのではないのでしょうか。

年を経て受け継がれ、季節の移り変わりとともに繰り返して行われてきた節供を始めとする数々の行事をご家庭でお子様やお孫様とともに行われてはいかがでしょうか。

これらの行事を通して今失われつつある、いのちの尊さ、仕事の大切さ、自然への感謝のころなどをご家族で話し合われ、この一年が皆様方にとりまして潤いのある年でありませうお祈り申し上げます。

成松蛭子神社



【鎮座地】兵庫県丹波市氷上町成松二七七番地四

一、成松蛭子神社の歴史

成松の町の中央に海拔百六十八メートルの小高い山があり、古くは高岡山と言う。

平安末期、後三条・白河天皇時代の学者 正二位 権中納言大江匡房の歌に

たかおかに 群れあふる人も

諸ともに 千代を契りし わかなをぞつむ

戦国末期、近江の国甲賀の土が一時この地に移り岩を構えてから甲賀山と呼ぶようになったと言われている。その山麓が公園と神域となっており氏神である大護神社を中心に、蛭子神社、愛宕神社、八幡神社、稲荷神社が在る。中でも蛭子神社はその中心場所に位置し、玉垣に囲まれた、威風堂々のお社である。明治二十二年西宮大神宮の分霊として奉祀された。明治二十三年御分霊十年祭、明治四十三年二十年祭と、商業地としての成松商店街の発展と共に、御神徳を慕うもの増加し、浄賽寄進によつて社殿の改修、境内の拡張を行った。昭和四年四十年祭には、時の西宮神社宮司吉井良晃氏による御歌を戴き、

移しかえて はやも四十古に 成松の
さかゆる色も 見えてたのし母
と、寄進の碑を建立した。

大鳥居の扁額「蛭子神社」は、明治神宮初代宮司へ「戸兵衛氏謹書によるものである。

社殿の改築に当たつての用材は木曾御料林附檜材を以て、工費二万五千円を要した。

「成松蛭子祭り」は毎年西宮えびす祭りより一ヶ月遅れの二月九日を宵宮、二月十日を本宮として行われる。一ヶ月遅れの理由は諸説があるが、当地は寒冷

であること、年末には誓文払いがあり商家にとつて日が接近していること等によるとされている。

祭礼は商売繁盛家内安全を願う神事の他「福娘」による、神札、吉兆の頒布、福もちまき、福うどんの振る舞い等、商工会協賛のもとに春の訪れを感じさせる行事として近郷からの参拝者も多く、又地元保育園児、幼稚園児、小学生の見学参加等で境内あふれる

ばかりの出入となり

終日賑わう。平成十年二月には、遷宮百年祭を執り行った。

二、成松の昔と今

兵庫県は南は瀬戸内海、北は日本海に接している。丹波市氷上町成松は、そのほぼ中央に位置している。

太古、成松付近は湖沼であったと考えられていた。長い間の地殻変動で、湖底は上昇し干し上がり、丹波盆地が形成された。成松の南東約3キロに水分けと言う地名がある。海拔95メートルの日本二低い分水界である。南へは加古川水系となり瀬戸内海へ、北へは由良川水系となり日本海に注ぐ。

この地域に人々が住み始めたのは、六七世紀と言われているが、このように水陸交通の要衝でもあったので、

交易市場としての街道集落の発生が成松の基を築いたと考えられる。加古川を利用した水運が盛んで、遠く播州、高砂、大阪あたりとも交易が行われていた。近郷には大きな船座があり、物資の輸送がなされた。近郷からの米穀、薪炭、畑作物、手織り布などの販売と、海産物、塩、日用品、鍛、鎌などの鍛冶品等、農商共栄の市場が開かれ商業地としての成松の基盤が築かれた。村も葛野庄柿芝村から元禄八年柿芝町と独立し、明治二十二年成松村柿芝と称し、これは西宮大神宮の分霊として成松蛭子神社が奉祀された年でもある。大正元年には町制を実施し成松町と改称された。戦後道路の拡張や舗装などにより商店の数も増えて、成松全域にわたつて商業の町として活況を呈した。近年は、流通競争の激化、交通体系の変化等商店街の賑わいは遠のきつつあるが、恵まれた自然環境による、丹波の里山、水と杜のさと氷上、健康と教育の町として、住みよい地域づくりが展開されている。

平成十八年十月

成松蛭子神社

氏子総代表 村上 哲夫

兵庫県丹波市氷上町成松二七七番地四

氏子総代 一同

足立 一彦

足立 唯夫

谷垣 忠春

田辺 寛

成松連合区長 高橋 義治

成松蛭子神社社殿



成松蛭子祭りの様子



子ども達が大活躍!
 今年度はお子様にお楽しみいただける行事が二つ増えました。震災後近辺にマンションが増えるとともに年々、子供の数も増えているようです。今後、お子さま向けの行事が重要になってくるのではないのでしょうか。

子ども相撲大会

七月九日(日)当日、雨の予報にも関わらず雲一つない晴天に恵まれて、市内外から二〇六人も小さな力士が集まりました。

開会式で土俵上での作法説明を受けた後、午前は幼稚園の部・小学生低学年の部、午後は小学生中学年・同高学年に分かれて熱戦が繰り広げられました。中には相撲クラブに属して、大人顔負けの取組で会場を沸かせる強豪も。

当日は激戦を勝ち抜いた十二名が表彰され、宮司より賞状・メダルが贈呈された後、沖恵美酒神社に入賞奉告をしました。



境内各所整備

これまで、境内には未舗装の歩道が多く、雨天の際には泥はね等で参拝者にはご迷惑をおかけしておりました。この度、境内東門から赤門にかけてと、北参道から神社会館前にかけて舗装を行うとともに、従来の参道の凸凹部を埋め合わせました。また沖恵美酒神社参道脇に砂利を敷きつめ、見目麗しく整備致しました。



神宮通拝所の整備後



神社会館前の整備後



境内歩道整備後



沖恵美酒神社参道整備後

船だんじり



七月三十日(月)、五町六地区の小学生七十人が集まり、住吉神社夏祭に参列。「えべっさんわっしょい!住吉さんわっしょい!」の掛け声で、復興なった「住吉丸」を曳き、周辺の西波止町・前浜町・泉町・建石町・浜町を練りまわりました。梅雨の余韻が残る中、子ども達は汗だくになりながら奉仕をされていました。住吉神社に到着後、神社前にて記念撮影を行い、大人の奉仕者の方からかき氷の振る舞いを頂きました。



今後とも子ども相撲大会は七月十日の沖恵美酒神社祭に近い日曜に、船だんじりは毎年七月三十一日の住吉神社夏祭に合わせて執り行う予定です。

赤門前鳥居復興

十一月中旬に完成予定



震災で倒壊した赤門前の旧鳥居

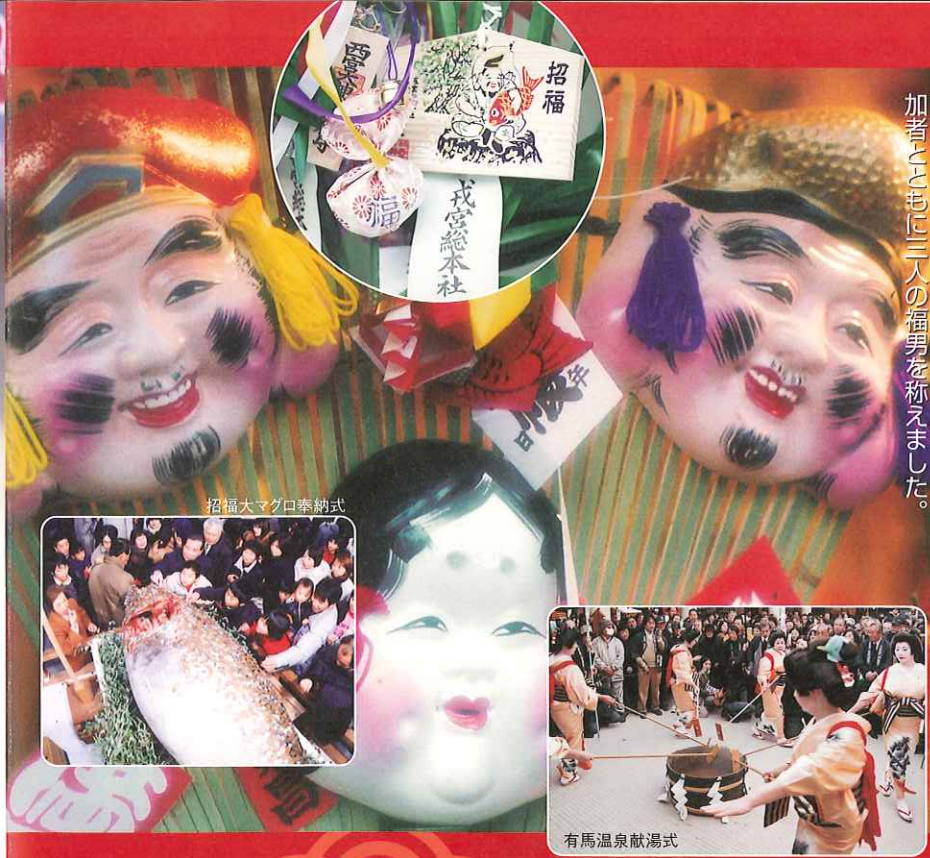
先の震災で倒壊した赤門・表大門・前の鳥居が復興されることになりました。既に十一月に作業は始まっておりまして、十二月中には完成する予定です。



復旧作業中の鳥居

十日えびす

いよいよ年の瀬も迫り当社も年末年始の準備に向けて、だんだん忙しくなってきました。読者の方にとって今年はどんな年でしたか？新年も例年どおり各祭典を行う予定です。平成十八年の開門神事にはのじきく兵庫団体のマスコット「はばタン」が来社。他の走り参りの参加者とともに三人の福男を称えました。



招福大マクロ奉納式

有馬温泉献湯式

平成十九年一月の行事

- 一月一日 午前 零時 初太鼓
- 午前 六時 歳旦祭・若水神事
- 二月 午前 十時 奉射事始祭
- 三日 午前 十時 元始祭
- 五日 午前十一時 百太夫神社祭
- 八日 午前 九時頃 招福大マクロ奉納式
- 九日 「宵えびす」 午後二時 有馬温泉献湯式
- 午後四時 宵宮祭
- 十日 「本えびす」 午前四時 十日えびす大祭
- 午前六時 開門神事福男選び
- 十一日 「残り福」
- 十五日 午前 十時 十日えびす奉賽祭



「平成十八年の福男」 左からはばタン・一番福良太さん・三番福奥村康三さん・二番福吉田光一郎さん

「神楽奉納のお誘い」

十日えびす期間中神楽殿におきまして、新春のお神楽の奉納を受け付けております。神楽奉納は年間を通して三日間のみの奉仕となっておりますので、この機会にご奉納下さい。

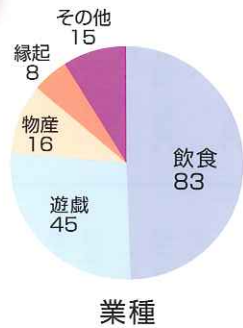
- ◆ 奉奏時間
- 一月九日 午前十時～午後十時三〇分
- 一月十日 午前六時～午後十一時
- 一月十一日 午前十時～午後十時三〇分
- ◆ 祈禱料 三〇〇〇円



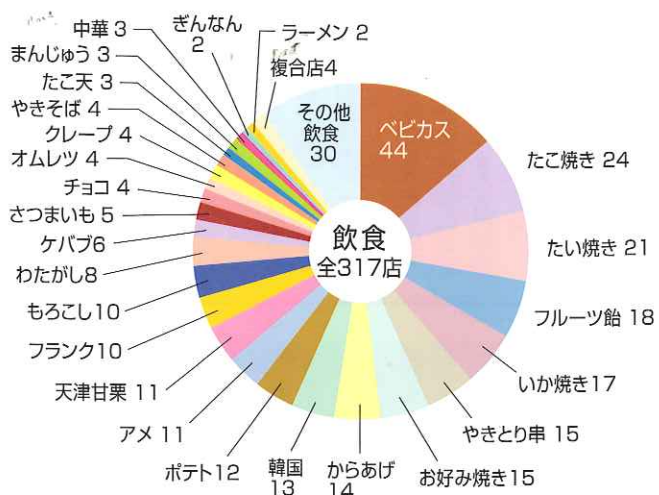
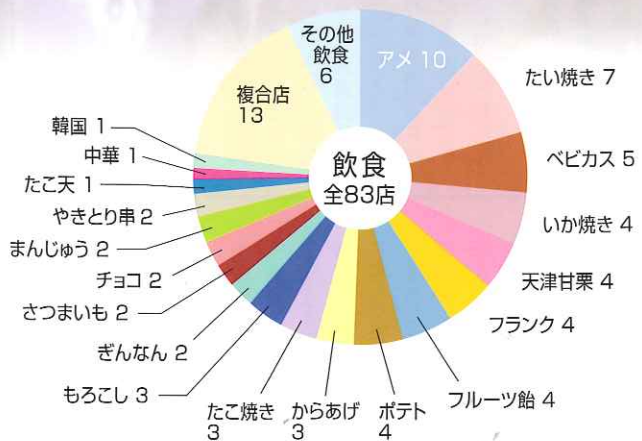
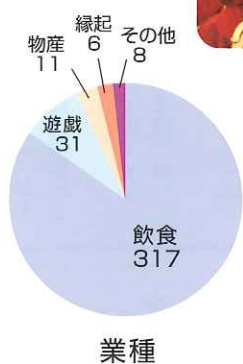
平成18年 十日えびす「露店調査」をしました



全167店



全373店



「開門神事が ケーキになりました」

去る十月二十四日に開催された西宮洋菓子園遊会に出展された「福男選びケーキ」の実物が正月から十日えびすまで、本殿に展示されることになりました。赤門が開かれ、参拝者がとび出す瞬間をモチーフにした作品で、溢れ出す参拝者の臨場感はもちろん、赤門の精緻な造形にも職人の技が光ります。ケーキを作成したツマガリの津曲孝社長は事前に赤門の写真を何枚も撮影。「ケーキを通じて、西宮の文化を発信していきたい」と語っておられました。



えびす瓦版

時の西宮神社社用日誌を
ひもとく「えびす瓦版」
今号は天保九年
(西暦一八三八年)に
記された社用日誌です。



神主	吉井上総介良明	祝部	大森致馬	祝部	大森主水	神子	瓶子清太夫
権神主	吉井宮内長頭		田村伊織		堀江左門		大石長太夫
社家	東向齋宮		廣瀬兵馬		橋本石膳		社役人 辻 大炊
			大森主膳				

参社ご使見御国、御料、御料

建物と境内の間敷を書上げこれを大半紙に認め、社中案内記は美濃紙に認め、これら三通つ上越前中奉書一枚重ねにし、御札は中奉書一枚重ね上包み水引、武運長久の中札を入れこれを予め準備しておく。

四月二十八日、本陣の松村儀左衛門からは住吉村まで、当社からは夙川まで遠見の者を出し御巡見一行の様子を同わせ、その報告によつて御出迎への準備を行う。

大門前には社家の東向齋宮と祝部の大森主水として先被二人が袴羽織でお出迎える。神主は狩衣にて立烏帽子、沓を履き拝殿の御拝の前でお出迎えをし、他の祝部は神主の後ろにつく。

一行のお名前は次の通り

御料御巡見御勘定役 御宿本陣

武嶋八重八殿

松村儀左衛門

同

岡田利喜次郎殿

浅尾市右衛門

同

御徒目付

坪屋源兵衛

小川伊兵衛殿

坪屋源兵衛

拝殿にご案内し御拝され、続いて神宝を飾つてるので御覧いただくように神主が申上げ、東の間に入られ種々お尋ねになられる。御祈禱は夕飯前に三軒の御宿へ持参する。浅尾方にお泊りの方より唐紙摺りの御影一枚、常の御影三枚を頂きたいと仰せられていると、

当所久保町平内太十郎、初午につき日燈明を献上

二月四日暮方より大広間に三百六十燈を灯し、平内太十郎の得意繁昌、海上安全、家内安全の御祈禱を執行する。木札は東御殿に献上。平内他五六人の参詣がある。油六升と御祈禱料金百疋を上げられる。

木札は次の通り

西宮大神宮 得意繁昌 家内安全祈攸
海上安全

天保九年戊戌二月四日 権神主良頭敬白

鈴講中恒例の参拝

正月二十三日、鈴講中五十軒の内二十七、八人が参拝される。酒は譜元より持参、肴は次の通りであった。

- 組肴 数子、牛蒡
- 鉢 たこ、鳥貝、ぬき、大根
- 組肴 蒲鉾、厚焼茄子、椎茸
- 濱焼 御掛鯛
- 吸物 當年者時節柄二付なし
- 汁 小あい、とうふ
- 平 塩鯛昆布 椎茸
- 焼物 うるめ

庄屋方より伝言があり早速これを届ける。当社には宝暦十年(1760)十一月と天明八年(1788)六月の二度の御巡見書留めが残っており、生田宮からの御巡見について先例の有無の間合せに、この書留を写して遣わす。

また社参十日前には大門前から芝附まで神主以下が見分し、大門南手の石垣の上にある辰弥助の茶店が目障りなので二尺程店を内側に引くように、また大門の焼餅店にも当日は店を閉め休むように申し付けていた。

続いて閏四月七日は御国御巡見につき、町方では盛砂敷砂手桶を出す、社中では掃除だけを行う。行が到着されて大門前で先例を尋ねられ、先例は社参された旨をお答え申し境内、建物の間敷と社中案内記をお渡しする。大門前にて下乗され挟み箱など門に控えて、お手廻りのお供だけで御社参される。神主が拝殿へ御案内し御拝される。

「中殿は何様」とお尋ねになられたので、「天照太神宮、東に恵美酒様御神像、西に素盞鳴尊、御兄弟御三神でございます」とお答え申し上げた。

- 御使番の内 御宿本陣
- 山本七郎左衛門殿 松村儀左衛門
- 御小姓組 同
- 三宅二郎殿 浅尾市右衛門
- 御書院組 同
- 市内内記殿 坪屋源兵衛

廣田社の砂持・棟上

廣田社境内も同じく雨天になると水が溜まるので、八月九日より晴天十日の間砂持にて地面を均す。廣田村、中村、越水村よりそれぞれ離子車を引き米銭を献上する。享保年中の御所替以来の賑わいと村人は申している。また今在家町より金二両、鹿ヶ口水車仲間より銀十貫文、段上村上下大市村より金三朱づつ、西宮釘貫町中之町鞍掛町三町より金二両が献納される。

十二月朔日、廣田社の屋根替えも終わり上棟を行う。四ツ時前より神主始め出動し、五社の箱棟に大工より日の丸扇、御幣を立て、中の御殿御拝屋根へ足板をして新薦を敷き拝殿にある五本の幣台に神五本を添えて神前に祭る。その前に御鏡餅五重餅餅などを供える。

大坂配下の交替

十月六日 大坂配下久世内記は昨年から長病のため職務を勤めることができないうので、その弟新吾に役義を仰せ付けられるように願ひ出があった。これを社役人辻大炊が神主へ申出たのでこれを聞届ける。目見のため新吾は神主家へ参上。神主は不快のため本来狩衣着装のところ略裏付上下にて面会する。のし昆布を遣わし兄内記の跡役を申付け御社法の通り大切に勤めるよう申渡す。免許は兄の免許を持参した節に渡すことを申し付ける。

江戸支配所役人交替願

江戸支配所役人正木采女が不埒であるとのことで、采女兄の伊勢から采女退役、伊勢再勤の願が社役人辻大炊、祝部大森主水両名宛に書状が届く。取込中につき、来る正月中には返事をすると返書する。

境内の芝居小屋を取り扱う

十月十九日、境内の芝居小屋を取り扱うとの届けが小屋主の深江屋兵左衛門から出される。尼崎へ売るとの由。

築洲祭を執行

六月十四日、例年の通り濱方より御肴鯛御神酒三升が届く。八ツ過ぎに濱へ参り、その後船樂にて仮殿へ向かう。音楽 御膳献上膳、神酒 中臣祓 神樂 音楽 退出 船にて楽、切麻を蒔く。築洲の真ん中で船を止め中臣祓座神樂を勤める。御札は竹に挟んで、仮殿神山のうしろに二本たてる。また幣を一本神山の前にたてる。

上包

築洲成就 御祈禱之札 神主

中札

西宮太神宮 大海神 風波無難築洲成就祈処 廣田太神宮

松原天神宮の砂持遷宮

西宮本社より北東手の畑中松原にある天神宮境内の地面は近年低くなり、雨が降ると水溜まりとなり参詣者が難儀するので、六月十五日より晴天の日十日間、人足により砂持し地面を平に均すこととなった。六月二十九日に終る。

七月二日夜、屋根葺き替えのため同宮御神像を本社境内仮殿へお遷しする。

小御輿を大人白丁四人、寺子供が昇く。行列には御紋付高張十張、金棒、松明、御弓二張、大玉串、御幣、潮水、切麻、音楽、警護の人、権神主守護、神子大工左官素襖を着る。その他町年寄、与古道町組頭、東之町組頭など各々高張にてお供する。

九月二十四日正遷宮、二十五日湯立、開帳、二十六日相撲奉納が行われる。

正月の御掛鯛献上

尼崎魚問屋より下役の尾張屋忠兵衛と魚崎長七両人が御掛鯛(大鯛三掛、中鯛四掛)を持参する。酒肴四五種、吸物、汁、平にて飯を出す。請取書は杉原に認め、上包みに水引を掛けて渡す。

桐生の佐羽家の家訓

(天保九年改定条目)

- 一、神仏信心之事、平生怠り申間敷候。
- 別而氏神稻荷神、江之島弁財天、西宮大神宮、大黒天家業繁栄開運と祈り可申、并二火防盜賊除者秋葉山三峰山妙義山信心可致候(略)

また同家の奉公人の「休家之定」の休日二日に「十月蛭子様」が記されている。

全国エビス信仰調査報告書

「えびすのせかい」所収

「桐生商人とえびす信仰」 亀井好恵

社中に儉約を申し聞かせる

近年は諸品高値となり、特に昨年当年と米高値となつている。また今年も散物(賽銭)、御像札が大いに少なく台所事情も難しくなつてきているので、恐れながら御神前への御膳御肴も儉約し、社中寄合つて御神事の節も常々の日用についても儉約する事を申し聞かせる。神主一人では行届かないので、この儉約の段を願うことを同に申渡す。関屋守へも同じく申付ける。これは先三ヶ年の事である。